

高知医科大学 (四国地区)

実施報告

(1) 実施責任者報告

高知医科大学長 俵 寿太郎

1. 放送公開講座の大学における位置づけと放送局その他の関係機関との協力関係について

• 放送公開講座の大学における位置づけ

四国地区の各国立大学は、徒前から大学における学問・研究の成果を地域社会に開放する事業として、各大学ごとに特色のある公開講座を実施していますが、昭和61年度から四国地区の7国立大学が協力して行う放送メディアによる公開講座を実施しています。

四国地区における放送公開講座が円滑に実施できるようにするため、各大学が協力することを目的として「四国地区国立大学放送公開講座検討委員会」（四国地区の国立大学大学長会議の下部機関に位置付け、四国地区7国立大学から各1名の教官で構成、下記実施体制参照）が設置され、実施大学については原則として県単位、輪番制で実施しており、62年度においては本学が実施大学となった。

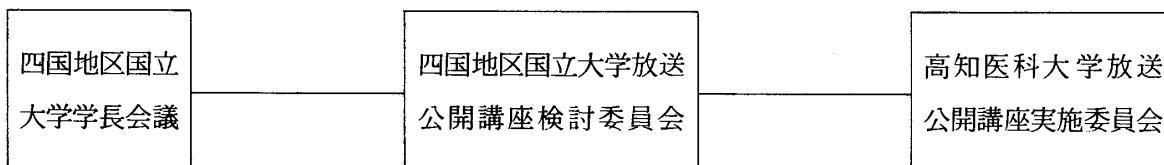
なお、実施大学がテーマ等の企画・立案を行うこととなり、本学としては、本講座が「大学群」ということで授業への活用等も考慮しつつ、一般の視聴者にも理解しやすく、なおかつ四国4県に共通した内容とし、レベルは一般教養程度とした。

• 放送局その他の関係機関との協力関係について

制作を担当したのはRKC高知放送で、放映は高知県RKC高知放送・愛媛県RNB南海放送・香川県RNC西日本放送及び徳島県JRT四国放送であった。

実施にあたって、制作局である高知放送からは企画段階から積極的な協力があり、県内外の取材、受講生募集の告知番組及び各回ごとのスポット番組の放送等多大な協力を得た。この協力体制は放映のみを実施した南海放送・西日本放送及び四国放送においても行われた。また、受講生の募集について高知新聞社には半5段にわたる募集広告を数次に亘り掲載するなど多大の協力を得た。

(実施体制)



※ 事務協力については、別紙「事務協力実施体制」参照

2. テーマの選定とそのねらいについて

老年人口の増加とともに老年者の医療が社会的にも大きな問題となっている。老年病の治療、管理ケア、あるいは予防に、直接間接に携わる人も次第に多くなってきた。このような人々に対し、老年者の機能障害と痴呆について系統的に解説し、その理解を深めるとともに、個人並びに社会の老年医療への対応に関する問題点を認識させることが必要ではないかとの観点からこのテーマを選んだ。

老年者は、多くの機能障害と疾患を併用する。高齢化社会では、医療は極めて大きな問題である。そこでは単に疾病の治療のみでなく、慢性の機能障害を有するものにどのように対処し、あるいは予防していくかが問われることになる。こうした医療は慢性に経過することが多い点から、医師はもとより、看護婦、保健婦、理学療法士、ケースワーカー、薬剤師、老人ホームの保母及びボランティアから家庭で老人のケアにあたっている人までの、幅広い人々のチームワークが必要である。本講座はこの観点から老人の医療、ケア、疾病の予防などに従事している多くの人達を主な対象としている。ねらいは老年に伴う機能障害と疾病について、正しい知識を得るように解説することにある。

この講座を受けることにより、老化と老年病についての認識を深め、個人としてあるいは社会として、これにどのように取り組むべきかを学ぶことになろう。それは大学と社会との結びつきを強め、地域社会の福祉に大きな寄与をなすものと思われる。

3. 番組、印刷教材、学習指導の関連づけについて

放送番組と印刷教材は、各回を対応させて一貫性をもたせると同時に、番組だけの視聴者、また印刷教材だけの読者にもそれだけで十分に理確できるように努めた。また、受講生登録の通知の際に、放映前に印刷教材をよく学習してもらうようにし、番組がより深く理解できるように配慮した。

学習指導においては、印刷教材がカラー印刷でなかったので、カラースライドを交え講義した。また、印刷教材に添付した質問カードを提出してもらい、スクーリングでまとめて指導し一層の理解を深めるよう努めた。

4. 番組の学習効果について（講師の印象、受講生の反応等から）

アンケートの分析が終了していないので正確に評価をすることはできないが、スクーリング出席者からは、「各講師の方が解説だけでなく、図や映像を取り入れたり、理解し易い言語で話す等の努力がみられ、大変よく理解できた」という高い評価を得ている。その他受講生以外の一般視聴者の関心も高く各地域の視聴者からも好評を得ている。

また、昨年に引き続き一部の社会教育機関では、生涯教育の一環として本放送を取り入れた独自の学習会を開いているところもある。

5. 印刷教材の作成過程について

高知医科大学放送公開講座実施委員会の下部組織であるテキスト作成部会において、本講座のねらい・性格及びテキストの基本的性格を位置づけて、テキスト作成要項を定め、それに基づきテキスト執筆要項を作成した。

全体構成については、「大学群」を意識しつつも、一般視聴者にもわかり易いように解説するため、図表等を多く取り入れるよう配慮した。

校正は初校を執筆者が行い、再校以降はテキスト作成部会が行った。

なお、一般視聴者にも利用してもらうため、執筆者の承諾を得て市販もされた。

6. 学習指導の実施状況について

高知県においては2会場で11月に1回、1月に1回各2時間で実施した。

当日は、主任講師を中心に3～6名の講師陣で、カースライドを使用し補足指導等を行い、次いで、事前に提出された質問カードに対する回答や、当日の質問に対する応答が行われ、受講生の70%が出席する会場もあり、大変好評であった。

実施場所	実施日時		出席者
高知会場 高知医科大学	第1回	昭和62年11月15日(日) 13:00～15:00	207名
	第2回	昭和63年 1月17日(日) 13:00～15:00	210名
中村会場 中村中央公民館	第1回	昭和62年11月28日(土) 14:00～16:00	44名
	第2回	昭和63年 1月23日(土) 14:00～16:00	29名
愛媛会場 愛媛大 学		昭和63年 1月16日(土) 14:00～17:00	83名
香川会場 香川大 学		昭和63年 1月30日(土) 14:00～17:00	52名
徳島会場 徳島大 学		昭和63年 1月31日(日) 13:00～16:00	51名

7. 「大学教育の地域社会への開放」に果たす役割について

(1) 今回の「健やかな老後をめざして 一高齢化社会への対応」のテーマでの講座は、高知県では5.2%の高視聴率をあげたように、この問題に関わりあっている四国地区の方々の知識・意欲の向上に役立ったと思われ、地域社会の医療・保健・福祉の向上に大学が果たした役割は大きかったと思われる。

(2) 今回の講座の作製の過程で、地域の人々と接して得られた現場での状況や問題点を、大学での研究、医療の開発にフィードバックして役立ててゆきたい。

- (3) 公開講座を通じて作られた地域と大学とのパイプを、今後一層活用して地域に役立つ大学として、地域に密着した大学として発展するよう努力したい。

8. 「大学の授業への活用」の状況と今後の可能性について

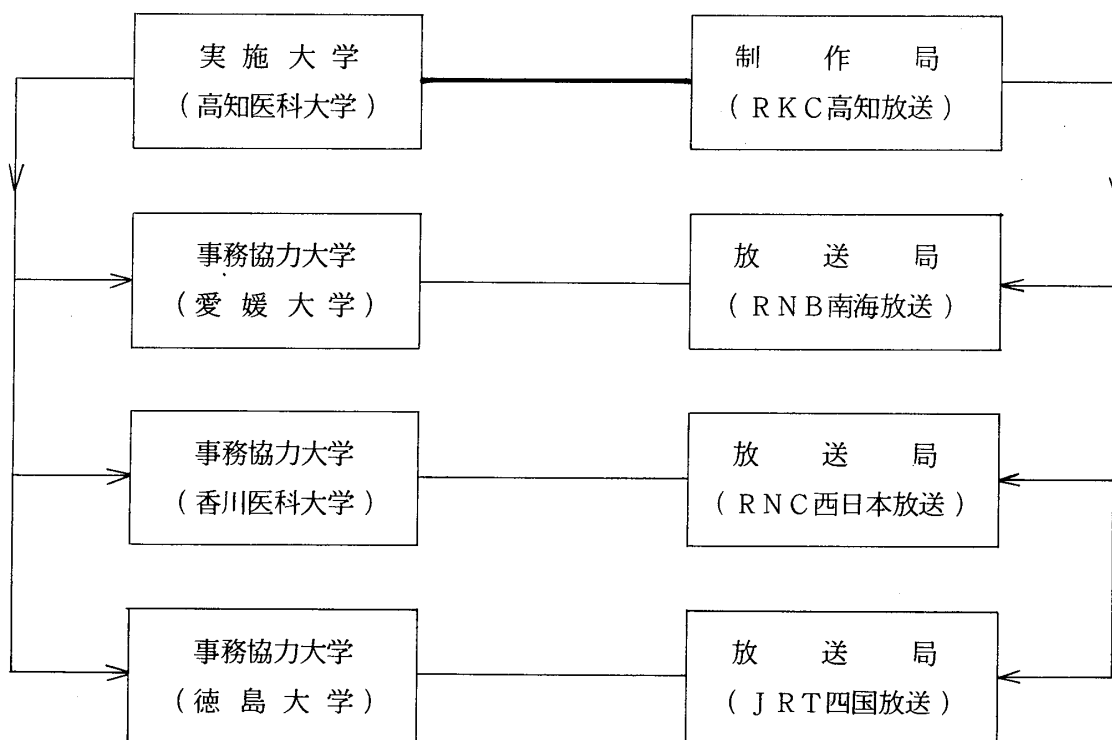
- (1) 我々の大学では、一般教養の学習の中に医学全般のテーマについて、学生が自主的に進め教官がアドバイザーになる「総合講義」のシステムがあるが、この総合講義の中に放送利用の公開講座のビデオを使用し、学生が自由に意見交換できる場をもちたいと計画している。
- (2) 一般、基礎医学、臨床医学の講義の中で、今回の公開講座の講師を担当した教官が、各自の講義に随時ビデオを放映し教育効果を向上させたい。

9. 実施上の問題点と今後の課題等について

- (1) 放送公開講座は大学と放送局との連携以外にはあり得ない。そこで協力して築きあげた人間関係、人的資源、物質投資を活用するためには、四国地区として7大学が7年間隔のラウンドでは長すぎる。せめて、北四国・南四国に分けてラウンド間隔を縮めてほしい。四国は山国であり、四県の風土も異なり、交通状況も良くない。第1回および第2回の四国地区国立大学放送公開講座の実績を見ていただき、是非、見直していただきたい。
- (2) 公開講座でどのような成果があったかを1年後に調査し、これをフォローする縦の追跡が必要と思われる。

事務協力実施体制

(別紙)



(2) 科目担当主任講師の所見

(テレビ科目) 健やかな老後をめざして ―高齢化社会への対応―

主任講師: 高知医科大学医学部教授 山本博司

四国地区の国立大学放送公開講座としては、高知大学に次いで2番目の担当であったが、いわゆる国立医科大学としては、全国で初めての登場となった。その意味からも、学長を委員長とする実施委員会、部会を組織し全学的に取り組むことから出発した。

今回のテーマである「健やかな老後をめざして―高齢化社会への対応―」は社会の高齢化先進地域である四国地区としては、極めて適切なものであったと思われる。このことは、定員を大きく上回る870名を超える受講生の応募、そして全国の放送公開講座の史上1位である。5.2%という高視聴率からも証明されたものと思われる。地域に公開する大学講座としては、やはり地域のニーズに取り組む課題であるべきことが、改めて認識させられた。

実施に先だって、放送教育開発センターでの放送公開講座シンポジウムに参加しての意見交換は、今回の実施に大いに役立った。まず、制作側のテレビ局と大学が早い時期から意見交換を行いつつ進めてきたことが、成果を収め得た大きな要因であったと思われる。

講座の内容としては、高齢化に伴う心身の障害を基礎医学的に、臨床医学的解析をするとともに、その対応方策を臨床的、社会医学的に追及することが出来た。制作部会で、講師間の連絡を密にし、分担し合い、諸問題を系統的に総括することが出来た。1つの大学の教官が主として担当したために連携がスムーズであった反面、講師陣が担当校に片寄りすぎて、四国地区の共催という趣旨に反しているのではないかとのご批判も一部からいただいた。

しかし、医学講座の分野では1つの大学で、補い得ない領域は少ない。そして、四国が山国であり、広くない面積であっても、交通整備は悪く、四国間の移動は容易ではない。この意味からも、四国地区では、輪番制にし、担当校が7年に1回、十分に妙味を発揮するのも、四国地区ならではの方法のように思われる。

今回のテーマが高齢化社会の問題であったせいもあるが、地域の中に浸透し、いろいろな形で地域とコミュニケーションすることが出来た。市町村における問題をドキュメントし、その取り組み方を紹介し、今後の方向を模索することが出来た。今回の番組制作のプロセスやスクーリングを通して、地域の医療従事者、保健婦、看護婦、市町村の保健行政関係者と大学との間にいくつかのパイプが出来たと思われる。これこそ地域に開く大学講座であったと思われる。今後、このパイプを介して、幾多のプロゼクトが推進されるものと思われる。

願わくば、7年に1回のラウンドは間隔が長すぎるように思われる。人的、物的資源を有効に活用するためにも、北四国、南四国に分けて、ラウンドし、進歩の速いこの時代に、公開講座をより一層地域に根づかせたいと思われる。関係諸家のご理解とご支援をお願いしたい次第である。

主任講師： 医学部教授 小澤利男

1. 企 画

四国地区国立大学放送公開講座を当大学で実施することにあたって、「健やかな老後をめざして—高齢化社会への対応—」という課題が決められた。このことは高知県が全国2位の老人県であり、大学が地域社会のニーズにこたえてその関係をより密接にする点からも、時宜を得たテーマであると思われる。講座には基礎をふくめて学内の多くの教室の参画が得られたが、学外講師の参加は比較的少なかった。

四国地区は相互に協力して番組を編成するようにと当局からの要請があったが、必要な映像はほとんど学内で収録可能であり、交通や連絡の不便な点もあって、十分な協力体制をとることができなかった。今後の課題と思われる。

対象は、老年医療に携るパラメディカルの人を主とすることを考えたが、実際には一般の多くの方々が受講された。ある町では教育委員会がビデオをとり、集会で町民に見せた後で招待した講師に直接質問するなどの熱意がみられた。テーマの関係で視聴率は高く、特に老年者の関心が高かった。

番組編成に当たっては、老化と疾病をめぐる問題を多角的に捉えることに意を用いた。

13回の講座のうち、はじめ2回は総論、次の7回が各論で諸臓器の老化と疾病について説明し、後の3回でケア、リハビリ、福祉など社会問題をとりあげ、最後を主任講師の座談会でしめくくった。全体として大学講座のレベルを保ち、いわゆる健康相談番組とならないように配慮した。

2. テキスト、脚本、映像

各回毎に講師を決定し、テキストの作成、ディレクターとの打合せ、撮録という順序で作業をすすめた。はじめての経験であり、かつ多忙な臨床、教育、研究の時間をさいて行われたため、講師とRKCとの日程調整が容易でなかったが、講師による台本はよく準備されていたようである。

全体の13回を通じてみた感じでは、多少理解困難と思われる面があったが（特に基礎医学に関して）まずまずのレベルが維持され、老化と老年病についての理解が得られたものと思われる。

ただし、各講師とテーマの性格上、若干の出来不出来があり、冗漫に流れたり、説明不足があった点は否めない。また、映像の使用がやや少ないようにも思われた。老後の健康は、社会的にも大きな問題であり、現実にケアにあたっている当事者から問題を提起するようなことがあってもよいと感じた。

3. 全体を通じて

老化と疾病の問題は広汎である。老人の痴呆の問題のみに焦点をあてても、3回分くらいの収録が必要となろう。これを基礎老化からはじめて、形態、機能、各臓器の疾病に及び、さらにケア、福祉に至ったのであるから、総花的印象は免れない。にも拘らず、老年者の健康と医療の問題がこ

こには集約的に出されているように思われる。これを機会に今後大学と地域社会の絆をより強くしていきたいと思う。

終わりにお世話いただいたRKC高知放送のスタッフ、ディレクター、アナウンサーの方々にここから感謝する。

主任講師： 医学部教授 池田久男

この講座の実施にあたり、私が関与したのは、1) テキストの作成と、2) 主任講師として第5回(心の健康)、第8回(40歳からの目と耳の健康)、第9回(尿の異常と疾病)を担当したことがある。テレビ放映が終わった時点での感想を述べてみたい。

1. テキストの作成について

テキスト「健やかな老後をめざして」の編集は私を含めて3名の教授が担当した。テキストはテレビでの放映の順序に合わせて、第1回から13回までの講義内容で構成され、各回の担当講師が原稿作成した。総頁数は278頁にまとめた。編集に先だって、1) テレビでの放映内容には必ずしも拘束されず、講義のテキストとしてまとめた内容にし、テレビを見なくても一冊の本として読んでもらえる内容にする。2) 内容、文体術語などは出来るだけ平易で、わかり易く書くこと。3) 画や表をふんだんに利用する。4) テキストはあまり分厚くならず、しかも一冊の本として適当な頁数があることなどが申し合わせされた。結果として、テキストが必要であり、所期の目的を果たしたと思う点は、1) テキストで十分に論旨が述べられているので、テレビではかなり重点を省いた講義ができた。2) テレビは始め期待した程詳しい、複雑な表や図が使えず、テキストがこれを補った。3) 受講者は必ずしもテレビでの受講に慣れておらず、放映後に繰返しテキストを読むことができる。4) 一冊の本としてかなり高度な内容に触れることができ、この講座が単なる「健康相談」の番組になるのを防ぎ、大学講座としてまとめた。

反面、問題点としては、1) 講義担当者は短期間に原稿を書き上げる必要があり、各担当者の絶大な協力が必要であり、2) 編集事務にあたる職員は講座開始までに校正、製本、配布などの作業があり、大変な仕事の量となった。

2. 担当講座について

第5回「こころの健康」は、「高齢者の心理」、「うつ病」、「痴呆」の3部より構成した。「高齢者の心理」は高知大学心理学教授に依頼したが、高齢者の介護に当たっている受講者が関心を持った。「痴呆」では患者やその家族が協力して下さりテレビでの放映もできたが、とくに患者を介護している家族との面接場面が多く受講者の関心を集めたようだ。

第8回「40歳からの目と耳の健康」では、情報の受け入れ器管としての目と耳の日常生活上の重要性と、それぞれの高齢者に好発する病気について説明があり、その病気に対する治療法の現状が

説明された。目と耳の健康が高齢者の日常生活や心理に与える影響についても説明された。

第9回「尿の異常と疾病」では、健康の指標としての尿の性質やその異常を主として内科の立場から、また排尿という機能の仕組みとその異常を主として泌尿器科の立場から説明があり、主に腎疾患、糖尿病、前立腺肥大、前立腺ガンなど高齢者の疾病とその治療法が説明された。

主任講師： 医学部教授 大原啓志

企画・制作の途中から主任講師として加わり、全般に関わる所見に乏しいので、講師として参加した感想にとどめる。

1. 講座の内容について

内容の目安として「大学一般教養」程度と聞いていたが、今回のように広範な視聴者に自身の問題として直接関連があり、関心も高いテーマについては、視聴者の個別性が強いニーズも含めて関心のレベルに差が大きいと考えられ、内容の設定が難しかった。

受講生として、専門職を含めた、老後の健康問題のケアを担当する者の多数の参加を期待していたが、それを意識した内容の場合は、一般視聴者のニーズと離れる場合もあったのではないかと。

例えば、私の担当した「医療・福祉システム」については、関係者に対する内容としては、従来の分野を越えた連携の推進のために、システムの概要と個々のシステムのもとの活動の現状と問題を再確認すること、そのなかで今後の方向性を検討する契機を提供することがテーマになると考える。

一方、一般視聴者にとっては、ねたきりなど需要が生じた場合に参考になる実際的な知識に関心があると思われる。しかし、現実のシステムの整備状況そのものに制度間や地域間の差が大きいこともあって、直ちに活用可能なことを提示することになるとも限らない。そういう意味で盛り込む内容の選択に迷った。

今回の講座の評価はまだ集約し得ておらず、この点に関する考察も十分にできていないが、「医学」というきわめて実践的な側面を持つ分野での講座の計画に当たっては、医学・医療の最先端の研究成果の紹介といった場合は大学側で内容を決定できるが、対象の主体を設定し、その代表者に参加していただいて、内容、レベルなどを検討していく方法もあるのではないかとと思う。

2. 番組の作成に関連して

テレビの番組作成については、あらためて① 問題の絞り込みの重要性、② テキストと異なって必ずしも系統的・包括的でなく、切り取った断面の提示を考える必要もあること、を感じた。これらに“映像”が関与するが、未経験者がオリエンテーションをつけることができる適当なサンプルが用意できないかと思う。

また、医学分野でもテーマによっては講師の対談形式が効果的な場合があるのではなかろうか。

3. 実施体制について

四国地区においては、担当大学が交代するため経験の蓄積の活用が困難で、企画・制作、また、大学と放送局との連携などで、ロスを生じることが考えられる。これを少しでも補うための、地区としての事務局的な体制の設置を検討すべきでないか。

制作報告

(1) 制作責任者報告

高知放送テレビ局テレビ制作部長 武田 侑二郎

1. 番組制作の基本方針と大学その他の関係機関との協力関係について

今年度のテーマは「健やかな老後をめざして－高齢化社会への対応－」である。全国屈指の老人県である高知県にとって極めて今日的、且つ重要なテーマであるとの認識に立って番組制作にとり組んだ。

しかし、問題は、日常的に余り縁のない医学という学問分野である。観念的にしか理解できていない高齢化社会の問題を、純粋に学問的な視点からとらえるだけでなく、現実の姿といかにオーバーラップさせ、見る人達にとって、どれだけ役立つ内容に集約してゆくかということに心をくだいた。

全体的に講師の先生方の忙しさは止むを得ないとしても、担当の先生方の個々のご協力には頭の下がる事が多く、すばらしいコミュニケーションが生れたと感じている。又、コーナー的には他大学の全面的な協力を戴いたが、更に関連する県内外の市町村役場、医療機関等の全面的協力があったことを付記する。

2. 番組の企画、構成及び制作上の工夫、特色等について

スタジオ収録の原則は変えられなかったが、収録に当っては余り時間を気にせず必要な内容を気軽に話していただき編集に手間をかけた。

事前の打合わせで映像化の可能性を共に探り、ビデオ映像、パソコンによる絵づくりを心掛けた。

3. 番組の視聴状況と成果（評価、反応）について

高齢化社会を迎えた今、極めてタイムリーな企画であり、視聴者がたとえ若かったとしても将来の問題として、自分自身に置き換えて考えるという一面を持っていた様に思う。共同視聴率調査の結果は5.2%前年を1ポイント上回ったが、講座に対する関心は、①テキスト売り切れ、②放送に対する問い合わせが相次ぐ、③スクーリング満員、などの実態からもうかがえる。

又、現実に地域の生涯学習グループ等の場で今回の講座が活用されている幾多の例を聞いている。

4. 実施上の問題点と今後の課題等について

昨年度の報告にも記したが、敢えて重複を避けない。

寺田寅彦の言葉を再度借りれば「放送公開講座は忘れた頃にやってくる」との実感が今年は更に強い。

現在の大学群の有り方では、次回高知放送が担当するのは6年後である。地形的に四国が1つの島であっても四国は四国であり、あくまでも四県であることを強調したい。

(2) 番組制作担当者の所見

(テレビ科目) 健やかな老後をめざして ー高齢化社会への対応ー

制作担当者： 高知放送テレビ制作部副部長 清 水 康 文

大学公開講座は、高知放送は昨年度に続いて2回目の制作である。今回の「健やかな老後をめざしてー高齢化社会への対応ー」は老年人口が増加している今、タイムリーな企画であった。講座は、老年者の機能低下と疾病について系統的に解説し、予防やケアの問題にも触れる内容となったが、だれにも関係があることなので視聴者の関心は高かった。

もっとも受講者の中には、医療機関の関係者も多く、ある程度のレベルに講座の内容を保つことが必要であったが、制作にあたってはテレビ番組である以上、やさしすぎるのではなく、わかりやすい内容にすることに心がけた。

四国は大学群である。7国立大学が持ち回りでは大学担当者がせっかく放送利用に慣れても、次回は、また一から出直しである。

また、放送地域の地元の大学の講座であるため、関心を持つ視聴者が多いことを考えると、毎年地元大学が講座を持つことが、地域の人々に、視聴者に親しまれるのではないかと思う。

制作担当者：高知放送テレビ制作部副部長 川 崎 奉 治

確かに一つのテーマを設けて、国公立大学の企画協力のもとに番組をつくり放送することは、大学の研究成果を一般に理解してもらおうという意味では大切だと思います。

しかし、国を含めて予算配分など、いろいろの理由で、いつも単品となり継続性がなく何か次への期待を込めながらも、しり切れトンボに終るとというのが現状です。

「四国は一つ」とよくいわれます。しかし、この放送公開講座に関しては、まったく別の意味にとられているような感じがしてなりません。

予算がないから四国の大学は7年に1度で良いだろう。そんな考え方では困ります。テレビを見ている視聴者は7年前のことは覚えていません。他の四国の県の大学の公開講座を毎年やるからいいだろうという意見があるかも分りませんが、それぞれの県民はやはり地元の大学のことを知りたいと思っています。

せめて、高知大学、高知医科大学を交互にとりあげるのが本当ではないかと思います。

さて、今回の高知医大につきましては、予想以上に医大の先生方とのコミュニケーションもとれ、この種の番組としては、まずまずの成果をあげたと思います。テキストも放送を終わり、じっくり読

めば、さらに内容が理解できたと思われれます。

視聴者が関心のあることをテーマにとらえ放送していく。今後はこういう姿勢が必要だと思います。

制作担当者：高知放送テレビ制作部副参事 山 岡 博

医療・病気への関心は現在、最も高い。まして、各個人レベルでは老後が健康である事が最大の課題であります。

こうした一般視聴者の要望に応えるべく今回の公開講座では、よりわかり易さを追求しました。(少しでも動く映像を多くし、パソコン導入など)しかし、元来医学的なことでより専門的な事柄が多く、今ひとつ難しかったようです。

もう一つ、病気は治るんだ。防ぐことが出来るんだということにも今回は力を入れました。そういった意味から、通常では入れない手術シーンの映像、患者さん等プライバシーの問題を含めて取材出来たのは良かったと思う。ただ時間の都合もあり、現在取り組まれている新しい研究や取り組みなど紹介できなかった点もあり残念です。

今回の13本すべてがスタジオ制作でしたが、中のいくつかはスタジオを飛び出し医療の現場などで収録できれば良かった感もします。また四国の他の県の例をもっと紹介する必要があったと感じています。

今後、放送公開講座を続けていく上で、テーマにもよりますが、やはり地元の大学が毎年かみこんでいないと各県の視聴者はまず、テレビを見ない。それをふまえ各県の大学で毎年公開講座をもつことが望ましいように思われます。それと再放送もする必要性を感じます。

また講座のテーマを決定する際、多少なりともテレビならテレビに向けたもの、ラジオならラジオに向けたテーマを決定すべきでありましょう。

また大学講座であることからフリップ・テロップ等かなり長めにあてはめてみましたが、もっと長くとの声もあり、番組として少々おかしくても、講座という観点から長く入れておくべきかどうか迷っています。

講座の概要

＜科目の概要＞

科目名	中心的なテーマ	科目のねらい	内容・方法
<p>健やかな老後をめざして －高齢化社会への対応－ (テレビ)</p>	<p>老年人口の増加とともに、老年者の医療が社会的にも大きな問題となっている。老年病の治療、管理、ケア、あるいは予防に、直接間接に携わる人も次第に多くなってきた。本講座はこのような人々に対し、老年者の機能障害と疾病について系統的に解説し、その理解を深めるとともに、個人ならびに社会の老年医療への対応に関する問題点を認識させることをその目的とする。</p>	<p>我が国の平均寿命は男子は74.8歳、女子は80.4歳と、世界のトップレベルにある。65歳以上の人口は、現在は平均10%余りにすぎないが、今後の増加は極めて急速で、30年後には20%に達するともいわれる。しかもこのような高齢化現象は都市よりも地方に顕著で、深刻な社会問題となりつつある。</p> <p>老年者は多くの機能障害と疾患を併有する。高齢化社会では、医療は極めて大きな問題である。ここでは単に疾病の治療のみでなく、慢性の機能障害を有するものにどのように対処し、あるいは予防していくかが問われることになる。こうした医療は慢性に経過することが多い点から、医師はもとより、看護婦、保健婦、理療士、市町村職員、ケースワーカー、薬剤師、老人ホームの保母、ボランティアから家庭で老人のケアにあたっている人までの、幅広い人々のチームワークが必要である。本講座はこの観点から老人の医療、ケア、疾病の予防などに従事している多くの人達を主な対象としている。この科目のねらいは、老年に伴う機能障害と疾病について、正しい知識を得るように解説することにある。</p> <p>受講者はこの講座をうけることにより、老化と老年病についての認識を深め、個人としてあるいは社会として、これにどのように取り組むべきかを学ぶことになるだろう。それは大学と社会との結びつきを強め、地域社会の福祉に大きな寄与をなすものと思われる。</p>	<p>本講座は13回行われる。全体はほぼ3つの部分から成り立っている。第1回と第2回は総論であり、人の寿命、老化とは何か、老衰死、老年に伴うさまざまな疾病の要約などについて、生物学、基礎医学、臨床医学の各方面から解説される。</p> <p>第3回から第9回までの7回は、臓器を中心とした機能障害と疾病が課題である。高血圧、脳卒中、心臓病、動脈硬化、糖尿病、痲尿、うつ病、癌、運動器の障害、視力低下、難聴、腎不全、膀胱の障害、肺炎など、老年者に関係の深いさまざまな疾患が、それぞれの専門家により平易に解説される。</p> <p>第10回から第12回までの3回は、社会的側面にスポットがあてられる。リハビリテーション、寝たきり老人のケア、障害のある老人に対する福祉対策、老人医療の現状、地域における健康づくりの要点などが、多角的に検討されていくことになる。</p> <p>第13回は最終回であり、座談会の形式で全体が総括される。</p> <p>各回には主任講師を含む複数の講師をおき、平易な図表と色調豊富な映像をとりいれながら対話形式で解説し、理解しやすいように工夫がこらされる。全体を通じて視聴することにより、受講者は老年者の障害、疾病、医療、予防などについて、正しい認識をもつことになるとと思われる。</p>

＜各科目の構成＞

(テレビ科目) 健やかな老後をめざして ー高齢化社会への対応ー

主任講師：医学部教授 小澤 利男
 " 教授 池田 久男
 " 教授 山本 博司
 " 教授 大原 啓志

放送回	放送月日				中心テーマ	担当講師
	高知放送	南海放送	西日本放送	四国放送		
第1回	10/ 3	10/ 3	10/ 4	10/ 3	老化とは何か	医学部教授 小澤 利男 " 教授 内海 耕健
第2回	10/10	10/10	10/11	10/10	老化と疾病	医学部教授 小澤 利男 " 教授 原 弘 " 教授 荒田 次郎
第3回	10/17	10/17	10/18	10/17	高血圧と脳卒中	医学部教授 小澤 利男 " 教授 森 惟明
第4回	10/24	10/24	10/25	10/24	動脈とともに老いる	医学部教授 小澤 利男 " 教授 田宮 達男
第5回	10/31	10/31	11/ 1	10/31	心の健康	医学部教授 池田 久男 高知大学保健管理センター 教授 澤田 丞司
第6回	11/ 7	11/ 7	11/ 8	11/ 7	老化と癌	医学部教授 前田 知穂 " 教授 藤本 重義
第7回	11/14	11/14	11/15	11/14	運動器の障害	医学部教授 山本 博司
第8回	11/21	11/21	11/22	11/21	40歳からの目と耳の健康	医学部教授 玉井 嗣彦 " 教授 齋藤 春雄
第9回	11/28	11/28	11/29	11/28	尿の異常と疾病	医学部教授 藤田 幸利 " 教授 大野 文俊
第10回	12/ 5	12/ 5	12/ 6	12/ 5	看護とりハビリ	医学部教授 山本 博司
第11回	12/12	12/12	12/13	12/12	地域における老人医療と福祉	医学部教授 大原 啓志
第12回	12/19	12/19	12/20	12/19	高齢期の健康づくり	医学部教授 大原 啓志 " 教授 木根 英雄
第13回	12/26	12/26	12/27	12/26	座談会	高知医科大学学長 依 寿太郎 医学部教授 小澤 利男 " 教授 池田 久男 " 教授 山本 博司 " 教授 大原 啓志

<スクーリング>

(テレビ科目) 健やかな老後をめざして ー高齢化社会への対応ー

会 場		日 時	日 時
県	場 所		
高 知 県	高知医科大学臨床講義棟	昭和62年11月15日(日) 13:00~15:00	昭和63年 1月17日(日) 13:00~15:00
	中村市立中央公民館	昭和62年11月28日(土) 14:00~16:00	昭和63年 1月23日(土) 14:00~16:00
愛 媛 県	愛媛大学法文学部		昭和63年 1月16日(土) 14:00~17:00
香 川 県	香川医科大学臨床講義棟		昭和63年 1月30日(土) 14:00~17:00
徳 島 県	徳島大学大学 開放実践センター		昭和63年 1月31日(日) 13:00~16:00

<再 視 聴>

実施会場		第 1 回	第 2 回	第 3 回
高 知 県	第一会場 高知医科大学 高事 務 局	昭和62年11月1日(日) ① 13:00~13:45	昭和62年12月6日(日) ⑤ 13:00~13:45	昭和63年1月10日(日) ⑨ 13:00~13:45
	第二会場 中 村 市 立 中 央 公 民 館	② 13:50~14:35	⑥ 13:50~14:35	⑩ 13:50~14:35
	第三会場	③ 14:40~15:25	⑦ 14:40~15:25	⑪ 14:40~15:25
	安芸市民会館	④ 15:30~16:15	⑧ 15:30~16:15	⑫ 15:30~16:15 ⑬ 16:20~17:05
愛 媛 県	第一会場 愛媛大学 附属図書館	昭和62年11月1日(日) ① 13:00~13:45	昭和62年11月29日(日) ⑤ 13:00~13:45	昭和63年1月10日(日) ⑨ 13:00~13:45
	第二会場 新居浜工業 高等専門学校	② 13:50~14:35	⑥ 13:50~14:35	⑩ 13:50~14:35
	第三会場	③ 14:40~15:25	⑦ 14:40~15:25	⑪ 14:40~15:25
	宇和島市立 中央公民館	④ 15:30~16:15	⑧ 15:30~16:15	⑫ 15:30~16:15 ⑬ 16:20~17:05
香 川 県	会 場	昭和62年11月1日(日) ① 13:00~13:45	昭和62年11月29日(日) ⑤ 13:00~13:45	昭和63年1月10日(日) ⑨ 13:00~13:45
	香川医科大学 附属図書館	② 13:50~14:35	⑥ 13:50~14:35	⑩ 13:50~14:35
		③ 14:40~15:25	⑦ 14:40~15:25	⑪ 14:40~15:25
		④ 15:30~16:15	⑧ 15:30~16:15	⑫ 15:30~16:15 ⑬ 16:20~17:05
徳 島 県	第一会場 徳島大学大学 開放実践センター	昭和62年11月1日(日) ① 13:00~13:45	昭和62年11月29日(日) ⑤ 13:00~13:45	昭和63年1月10日(日) ⑨ 13:00~13:45
	第二会場 阿南工業 高等専門学校	② 13:50~14:35	⑥ 13:50~14:35	⑩ 13:50~14:35
		③ 14:40~15:25	⑦ 14:40~15:25	⑪ 14:40~15:25
		④ 15:30~16:15	⑧ 15:30~16:15	⑫ 15:30~16:15 ⑬ 16:20~17:05

○内の数字は、放送回を示す